

Vol.1 1997 1月号

財団季報

循環器病研究振興財団

ごあいさつ

理事長

尾前 照雄



新年おめでとう御座居ます。一昨年の一には阪神大地震、それに引き続き国の内外で大きな事変や医療・福祉にからむ諸問題がクローズアップし、二十一世紀を前にしてわが国は未曾有の試練に立たされている思いが致します。気を引きしめ問題を掘り下げて、困難を克服していく勇気がいま最も求められているように思います。どうぞよろしく願い申し上げます。

当財団の設立と発展に最も御盡力なされた前理事長曲直部壽夫先生が昨年暮れに御逝去され、どのように今後事業を展開させるべきか、大きな責任を感じております。このような時期こそ財団設立の原点に立ちかえり、最も効率的な運営をはかるとともに、財団を御支援いただくための誠実な広報活動が必要と感ずる次第であります。此処にあらためて財団季報として年四回の会報をお届けすることにした次第であります。

御存知のように、循環器病の領域は心臓病、脳卒中をはじめとし、高血圧や動脈硬化症などに関連するすべての血管病、先天性の心臓病など範囲は誠に膨大であります。また、「ヒトは血管とともに老いる」という言葉があるように、高齢者医療のなかでは罹病率、死亡率が圧倒的に高く、国民総医療費の最大部分が之によって占められています。また、そのために精神機能や肉体活動が障害され、日常生活、社会生活に支障を来すものが数多く存在することも御存知の通りであります。

本財団は国の循環器病対策支援の目的をもって設立され十年が経過しました。循環器病に関する研究助成、国内外の研修者助成、国内外で行われる循環器病関連の学会や研究会への支援と協力、

国際交流の促進、研究業績集と予防啓発活動などをこれまで行って参りました。人口の高齢化が急速にすすむなかで、これらの事業に関する需要は今後ますます大きくなっていくと思われま

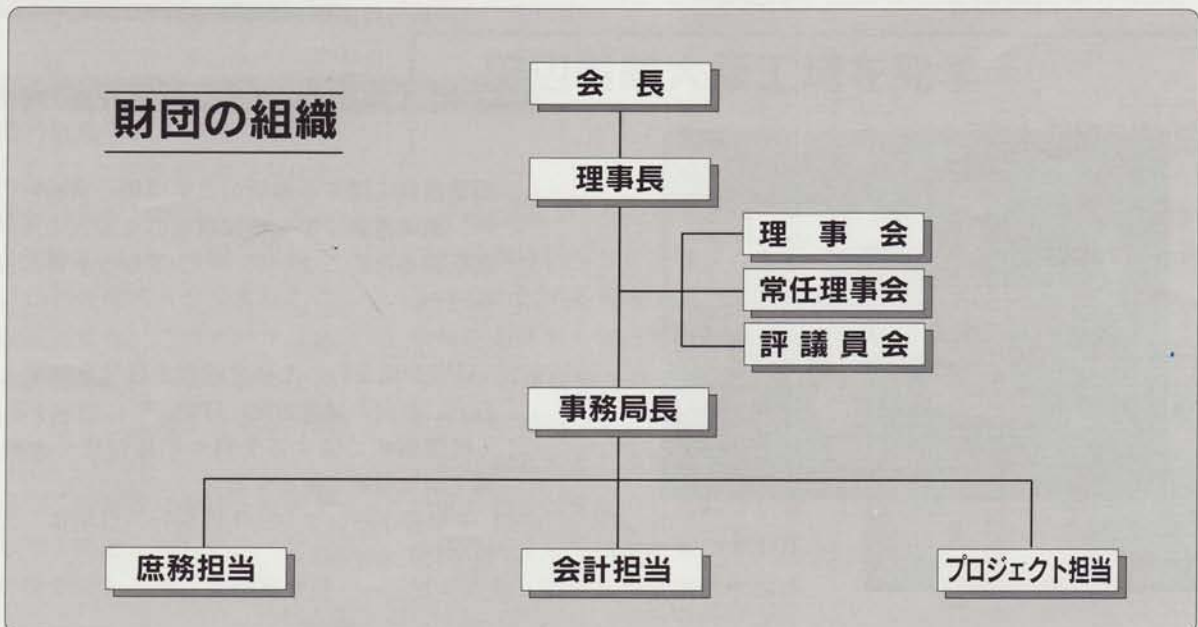
す。また、医学の進歩に伴って医療の内容が多岐にわたり、医療の経済効果や生活の質(QOL)に及ぼす影響への関心が急速な高まりをみせております。そのニーズにこたえるには進歩した情報システムを駆使し、医療の効果を評価する体勢を確立、支援することも当財団の重要な使命と考えております。一方ではまた先端医療の開発を目指す国立循環器病センターの研究活動の支援と医療への定着を支援することも重要で、そのための国際交流、研修助成も計画に加えなければなりません。欧米に比べていちじるしく立ちおけている心臓移植などの臓器移植がわが国に定着するための支援もしなければなりません。

この財団の現状を御理解いただき、御支援の主旨を生かすべく、季報を通じて努力していきたいと考えます。成人病のなかで最も頻度の高い循環器病の制圧は二十一世紀に向っての最重要な国民的課題でもありましょ

う。季報創刊の御挨拶を申し上げますとともに、今後とも変らぬ御支援、御協力を切にお願い申し上げます。

財団法人 循環器病研究振興財団 役員名簿

会 長	佐治 敬三	前大阪商工会議所会頭
副 会 長	川上 哲郎	関西経済連合会会長
〃	仁村 泰治	国立循環器病センター名誉研究所長
理 事 長	尾前 照雄	国立循環器病センター名誉総長
常任理事	梅本 純正	武田薬品工業株式会社相談役
〃	大谷 藤郎	財団法人藤楓協会理事長
〃	末次 彬	財団法人年金住宅福祉協会理事長
〃	杉本 恒明	社団法人日本循環器学会理事長
理 事	青山 行雄	読売テレビ放送株式会社会長
〃	伊藤 正男	日本学術会議会長
〃	稲盛 和夫	京都商工会議所会頭
〃	大西 正文	大阪商工会議所会頭
〃	川勝 堅二	株式会社三和銀行相談役
〃	川島 康生	国立循環器病センター名誉総長
〃	小林 公平	阪急電鉄株式会社会長
〃	小林庄一郎	関西電力株式会社会長
〃	信友 浩一	九州大学大学院教授
〃	牧 冬彦	神戸商工会議所会頭
〃	松尾 壽之	国立循環器病センター研究所長
〃	村瀬 敏郎	前社団法人日本医師会会長
〃	森 亘	日本医学会会長
監 事	安部川澄夫	株式会社大和銀行相談役
〃	井植 敏	三洋電機株式会社会長



◆平成8年度 事業計画

I 研究助成事業

循環器病に関する診断・治療、ならびに成因解明と予防に関する研究に対して、必要な助成を行う

(1) 公募研究助成

A. 公募研究助成

全国公募による臨床・予防医学・疫学・基礎医学の中から自由課題10課題、指定課題「頻脈性不整脈の治療」と指定し、研究助成を行う。

B. バイエル循環器病研究助成

学識経験者により研究課題を「画像診断」と指定し、全国公募により研究助成を行う。

C. 循環器疾患看護研究助成

全国公募による循環器病看護について10課題の研究助成を行う。

(2) 指定研究助成

- A. 高齢者高血圧に対する降圧薬治療の効果に関する研究
- B. 長期降圧薬治療評価研究
- C. 脳卒中再発予防に関する国際研究
- D. ナトリウム利尿ペプチドの研究
- E. 重篤な脳血管傷害に対する診断・治療法の研究開発
- F. プロジェクト研究助成



II 研究・研修者助成事業

循環器病に関する研究者および医療技術者の教育訓練、ならびに海外医療関係者の研修受入れに対して助成する。

(1) 国内外研修者助成

国内外の研修に対する派遣研修者に助成する。

(2) 国際協同研究助成

海外で開催される学会・協同研究に参加する研究者に助成する。

(3) 田辺製薬外国人研究者助成

循環器病を研究するため滞在する外国人研究者に助成する。

III 学会助成事業

循環器病に関する国際学会・国内学会などに援助・協力する。

- (1) 脳卒中・虚血性脳外傷の低体温療法のシンポジウム
- (2) 第15回日本脳・神経超音波研究会
- (3) 第17回日本脳神経外科コンgres
- (4) 第32回日本小児循環器学会総会
- (5) 大動脈外科国際シンポジウム

IV 研究業績集と予防啓発活動

循環器病に関する最新の医学情報・資料等の発行、循環器病に関する知識を広く国民に周知徹底を図るためニュース・パンフレット等の発行を行う。

- (1) 研究助成を行った研究報告を研究業績集として発行し、全国の関連病院・研究所等に配布する。
- (2) 循環器病に関する資料や学術情報を医療関係機関・研究所等に配布する。
- (3) 循環器病パンフレットの発行、自治体・会社・市民等に配布する。

—厚生省老人保健事業—

「血压モニタリングによる高齢者高血圧の診断・治療・予防指針の作成事業:24時間血圧と家庭血圧を用いて」

国立循環器病センター内科部長 瀧下 修一



年をとるにつれて血圧が上がり、高血圧の人の割合は増加します。高齢者の高血圧も治療することによって脳卒中や心筋梗塞などが減ることがわかってきました。高齢者では、若い人に比べて血圧の変動が大きいことが特徴です。医療機関を受診した時の血圧が普

段より高い、いわゆる白衣高血圧(普段は正常血圧)ないし白衣現象を示す割合も多くなります。また、昼間の血圧に比べて、夜間の血圧が下がらなかつたり、逆に下がりすぎる場合もあります。降圧薬治療によって、白衣高血圧では普段の血圧が正常以下に下がる危険があり、夜間血圧の下がり大きい人ではさらに低下する可能性があります。過度の血圧低下は脳や心臓の血流量が減少して虚血状態を

招き、脳梗塞や心筋梗塞の発症、軽い場合は立ちくらみや、考えがまとまらない、元気が出ないなどの症状と関係します。したがって、適正な診断と降圧レベルの設定が必要です。

医療機関での血圧測定のほか、家庭での血圧測定や、携帯型自動血圧計による24時間血圧測定(30分毎の測定)を用いて、高齢者の血圧管理に関する指針を作るのがこの事業の目的です。

平成8年度 バイエル研究助成受賞者決定



この研究助成は我が国における循環器病研究のより一層の振興と成果を希求して平成5年度から10年間、即ち21世紀初頭まで実施することになっており、今回を含めて今迄に15名の研究者が受賞したことになる。また、このテーマは毎年定め、全国の少壮研究者の独創的または萌芽的研究に対する助成を目的としている。

今回もこの分野における研究者に対して「画像診断」をテーマとして公募したところ、大学及び研

究所をはじめ各地の病院に所属する研究者から27課題が申請され、選考委員会による厳正な審査の結果、約7倍の難関を突破して4名の研究者が研究助成を受賞することとなった。過去4年間の平均倍率は11倍にも及んでおり、この研究へ

の関心の高さを示しているものと言える。

贈呈式では理事長からお祝いと激励の言葉があり、続いて審査委員長からは受賞課題ごとの評価点などが報告された後、受賞者を代表してお礼の挨拶で贈呈式を終え、受賞者を囲んでのなごやかな歓談のひとときが繰り広げられた。

田辺製薬大阪工場を見学

—外国人研究助成—

平成3年度から国立循環器病センターの指導医のもとで毎年、中国をはじめとする東南アジア諸国の研修生が研修を行っている。これ迄に35名が研修を終えて帰国後、それぞれの国で大いに活躍中である。

田辺製薬大阪工場見学は研修の一環として医薬品の近代的な製造過程や研究開発状況を見学する目的で実施しているが英語と中国語

による工場側の説明に研修生一同、熱心に耳を傾ける姿が印象的であった。



第9回 循環器病チャリティゴルフ大会開催 今年も珍プレー好プレーが続出！

読売テレビ、読売新聞社、報知新聞社主催、厚生省、近畿2府4県、大阪市、京都市、神戸市、近畿2府4県医師会等の後援ならびに各社の協賛と関西ゴルフ連盟の協力により昭和63年に開催されて以来、本大会は9回目を迎えることになった。

今年の大会は願ってもないゴルフ日和に恵まれて、各界の名士160名は受付に設けられたナースによる血圧測定を済ませて順次、意気盛んにスタートホールへ！参加者の殆んどはハイエージ層であるため、いつもながら珍プレーあり、好プレーありの続出で恰も参加することに意義があるかの様に1人の故障者もなく最後まで和やかなプレー風景があちこちに見られた。プレー終了後、希望者には再度の血圧測定と血液検査のための採血を行った結果、血圧測定率87%、採血率48%と言う数値は、さすがに自らの健康を守る姿勢がうかがわれる。



ショートホール4ホールではティーショットをワンオンした場合、1000円以上の特別チャリティ募金、また、2ホールでは日本女子プロゴルファーの大迫、若浦両プロとの挑戦マッチで勝った場合にも1000円以上の特別チャリティ募金に協力すること等、他の大会では見られない企画であったが、果たして何人のプレーヤーが特別チャリティに協力されたかは定かでない。

この大会のチャリティ協力金は読売テレビをはじめ関係各位のご厚意により貴重な財源として当財団に寄



付され、全国の循環器病研究者への助成に役立てており、ひいては我が国の循環器病制圧のために大いに寄与して頂いている。さらに昨年度と今年度についてはこのチャリティ協力金の一部を阪神・淡路大震災復興支援として兵庫県医師会にも寄付され、社会的貢献への意義は誠に大きいものと言える。

来年の大会は第10回の節目となり、一段と趣向をこらしての大会を期待すると共に当日の好天を祈ってやまない。

財団季報

告

知

版

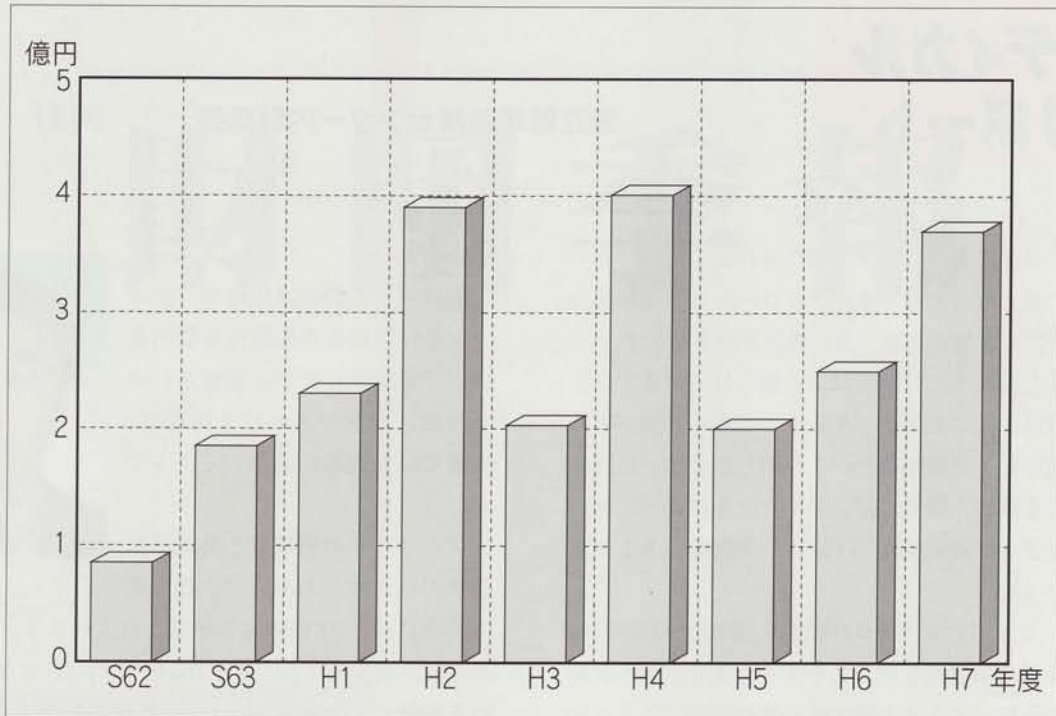
●9年度 公募研究助成指定課題は「動脈瘤に関する研究」

●9年度 バイエル研究助成指定課題は「心不全」に決定

●9年度 外国人研究助成者8名が内定

中国6名、韓国1名、エジプト1名

年度別寄付金受入の状況



平成7年度 個人・団体寄付に 厚生大臣から感謝状贈呈

—個人—

浅田初枝(京都市)
岡本敬治(摂津市)
中島延佳(大阪市)
西村敏子(東大阪市)
土師時代(富田林市)

—団体—

読売テレビ放送(株)
(財)みどり健康管理センター

我が国の急速な人口の高齢化を反映して、今後、心臓病や脳卒中をはじめとする循環器病の増加が予想されており、当該疾病に対する研究助成や各種の啓発、予防普及のための事業を推進している当財団に多額の私財を寄付された個人(100万円以上)及び団体(300万円以上)に対し、その崇高な行為をたたえ感謝の意を表することを目的として厚生大臣から感謝状が贈呈されることになっている。

平成7年度においては、個人5名と2団体に管厚生大臣から感謝状が贈呈されたが、このほかにも多数の皆さん方から貴重な私財をご寄付頂いた。

これらの寄付金に対しては当財団が「特定公益増進に関する認可法人」として指定されていることから免税措置が認められている。ご寄付を頂いた皆さま方のご厚意に深謝するとともになお一層、事業の発展に努める所存である。



寄付金には特別減税措置が適用されますので、皆さまのご協力をどうぞよろしくお願いいたします。

メディカル レポート

アルコールと循環器病

国立循環器病センター内科医長 河野 雄平

アルコールは体に悪いことが問題にされますが、一方では酒は百薬の長とも言われます。アルコールと循環器病との関係についても、悪い場合と良い場合とがあります。

アルコールと高血圧との関係はよく知られています。しかし実際には飲酒後に血圧が下がることが多く、顔が赤くなる人では血圧低下と脈拍増加がより明らかです。私たちの24時間血圧を調べた研究では、アルコールによって朝の血圧は上がりますが夜の血圧は下がり、平均値はあまり変わりませんでした。

心臓については、アルコールは脈拍を増やし、期外収縮や心房細動などの不整脈を起しやすくします。また長期のアルコール摂取によって心肥大や心筋症が生じることがあり、心臓の働きが低下して心不全になる場合もあります。

しかしアルコールには、動脈硬化を抑制して心筋梗塞を防ぐ効果が認められています。これは血液中のHDL(善玉)コレステロールが増えることや、血管内で血液が詰まりにくくなるなどのためです。この効果はすべてのアルコール飲料でみられますが、赤ワインには他の有効成分も含まれ

ています。

脳卒中との関係は複雑で、アルコールは脳出血の危険性を飲酒量に応じて増やします。脳梗塞については、少量であれば予防的に、大量では促進的にはたらくようです。

アルコールの摂取量と循環器病全体の死亡率、あるいは全死亡率

との間には、J字型の関係が見られています。すなわちアルコールを少量飲む人(1日30ml位まで)は飲まない人よりそれらが低く、大量飲む人(60ml以上)では量に応じて高くなります。アルコール30mlは酒1合、ビール大1本、ウイスキーダブル1杯にほぼ相当し、この程度が無難なところだと考えられます。お酒とは上手に付き合ひましょう。



窓

克山病(心筋症の一種)研究で有名な于維漢教授が当財団を訪問され夕食を共にしたときのスナップ(平成8年10月)



編集 後記

日頃から多大のご支援を頂いております関係の皆さま方に財団の事業内容や活動状況をお知らせすることは事務局の重要な努めであると考え、このたび財団季報を創刊する運びとなりました。

平成8年度も余すところ3ヶ月足らずとなりましたが前記の事業計画も順調に推移いたしております。

この財団季報を末永く継続して発刊することは大変なことではありますが皆さま方のご支援とご理解を賜わりながら財団職員一丸「邁進努力」してまいりたいと思っておりますので一層のご鞭撻の程、よろしく願い申し上げます。

(事務局)